



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第180号 2026年6月18日

ゴールド

米とイランの停戦交渉後に金利上昇予測が消え、4300ドルを超えるも、FOMCの決定様子見の投資家で上昇率は抑え気味。

シルバー

70ドルまで戻るも金銀比価は62に下がる

プラチナ

ETP保有高は減り続け2024年4月以来の最低となる102.6トン

パラジウム

CMEのファンドマネジャーのネットショートポジションは9月以来最高となる13.9トンに

IPMI と JCK カンファレンスから 現物需要の動向を探る

先週と先々週にかけて、米国で開催された貴金属業界の2つの重要な会議に参加してきた。5月29日から6月1日にラスベガスで開催された宝飾品業界中心のJCK Las Vegas、そして貴金属業界関係者全体が集った6月6日から9日にオーランドで開催された第50回IPMI Annual Conferenceだ。

どちらのイベントでも参加者の脳裏にあったのは、米国の金利政策がタカ派的になる予想が高まる中、下落しているゴールドとシルバーの価格だった。2026年初頭、関係者の間では今後2回にわたって政策金利が引き下げられるという見方で一致していたが、6月初めまでにはこれが怪しくなり、その後2027年末までに利上げが行われる予想に転じた。6月8日時点ではこれが前倒しになって年内に2回の利上げが行われるという市場予想となった。こう予想が変わったのは、5月の米雇用統計が市場予想を上回る強い数字となったことを反映しており、過去の雇用データが上方修正されたことも相まって、米国経済が考えられていた以上に底堅いことを示していたからだ。

また、メタル価格の動向はイラン戦争の終結に向けた第一歩となる「覚書(MoU)」に関する米国とイランの交渉をめぐる不透明感にも左右された。はっきりしない先行きをもたらしたインフレ予想、原油価格、米ドルへ影響は、ゴールドとシルバーの価格を押し下げる十分な圧力となり、特に6月初めに戦闘が再開されたため、その傾向はさらに強まった。そのため6月の最初の2週間でゴールドとシルバーはともに下げ、2025年の11月、12月以来の低い水準にまで下落した。

JCKではゴールドの高価格の影響が顕著に

JCK Las Vegas で話を聞いた各方面の関係者の多くは、消費者のゴールド宝飾品に対する関心は根強いながらも価格の高騰によって需要が抑えられてしまっている現実の間の舵取りをこなそうとしている様子だった。色石の製品を除き、宝飾品カテゴリー全体では依然としてイエローゴールドが主流を占めており、一部が予想していたほどホワイトゴールド復活の兆しは見られなかった。これは、近年強まっていた温かみのある色合いを好む傾向が、一過性の流行ではなく、定着していることを示している。

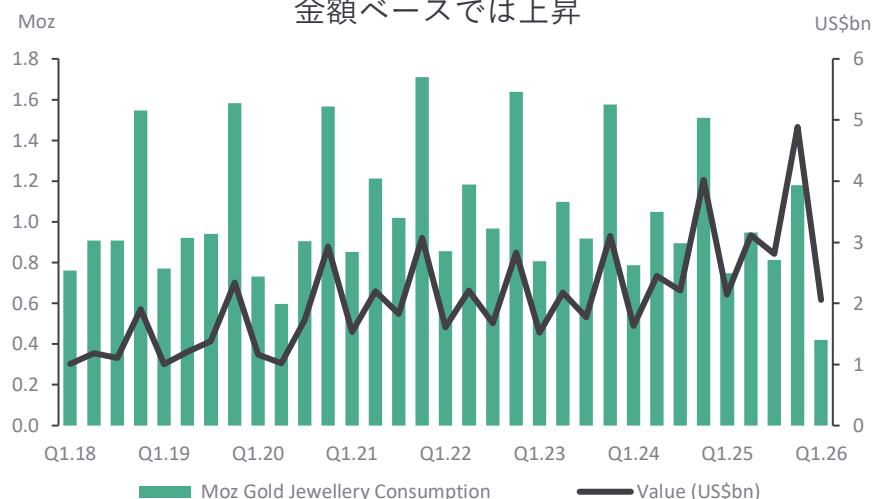
ブライダル部門では価格高騰によって購買力が低下する中で、消費者はゴールドからプラチナにシフトしていると指摘する小売業者が多かった。ただ、これが高い水準にあるゴールド価格に対する一時的な反応なのか、あるいは構造的な変化なのかを判断するには今後の動向を見極める必要がある。

より広い観点から見ると、ゴールド価格の高騰でさまざまな消費者層の購買行動が変化していることがわかる。一般および中間層の消費者は、より手頃な価格帯の純度の低い製品に流れ、10金の宝飾品の需要が増えたと報告する小売業者もあった。また、この消費者層ではより軽量の商品の人気が高くなっている。販売数量自体は減少したものの、ゴールド価格の上昇によって商品あたりのドル価値が押し上げられたため、卸売業者や小売業者の売上高は安定、あるいは改善している。

販売数量の低迷は消費データおよび輸入データにも表れた。2026年第1四半期の米国のゴールド宝飾品の消費量は、重量ベースでは我々の持つデータで最も低い水準に落ち込み、2025年の輸入量は前年比で40%以上減少した。サプライチェーン下流における需要の大きな落ち込みは、我々がJCKで感じ取ったセンチメントを裏付けている。

米国のゴールド宝飾品、消費量は下落も

金額ベースでは上昇



IPMI カンファレンスでは玉石混交の反応

米雇用統計の発表後すでに弱気相場にあった貴金属がさらに下がった中で IPMI が始まった。米国経済が底堅いという感触は、近年メタル価格が上っているにもかかわらず、工業ユーザーのシルバー需要が強いと語る市場関係者らの発言にも現れていた。現在、AI の台頭やデータセンターのインフラ構築の拡大を背景に、特に電気接点などの電子材向けのシルバーの需要が旺盛で、建設や自動車などの他のセクターの継続的な低迷を補っている。

また、市場関係者らは北米のシルバー精錬供給網で供給不足が続いていること、精錬能力が拡大すればリサイクルを通じて市場に戻る可能性のある「市場に近いところにある原材料」が依然として大量にあるとしていた。

投資需要に関しては、ディーラーや卸売業者の情報によれば、年初来の市場はゴールドもシルバーも前例のないほど需要が増える時と、非常に静かな時が混在する強弱入り混じった展開になっているとのことだ。重要なのは、米国市場は売却と購入が交錯する度合いが非常に高く、それが時に均衡することもある点だ。

過去 2 年間で米国のゴールドインゴットおよびコインへの純投資は半減し、シルバーの現物投資も 70%以上減ったという我々の予測が示唆する通り、現物投資のネットベースの新規需要は依然伸び悩んでいる。低迷が長期化しているために今年はどうのような反発が起きたとしても、2026 年初頭に予想されたほどの強い回復にはならない可能性がある。

米国のゴールド小型インゴットとコインの需要は
回復もまだ低い水準

